

## 第44回京都府文化賞受賞者紹介

	氏名	受賞者紹介	
特別功労賞	おぼろや 朧谷 寿	日本古代史研究家	平安時代の邸宅や生活文化、政治など多角的に歴史を紐解きながら、京都の景観論、町家のあり方などを探究。数多くの著書や論文を発表し、府内のみならず全国での講演活動にも精力的に取り組むなど、平安文化の歴史研究に尽力した。
	きむら 木村 光佑	版画家・彫刻家	京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)で学んだ「対象を、一つのまとまりではなくディテールの寄せ集めとして捉え、その向こう側にも目を向ける」日本画の精神を取り入れた版画表現を生み出した。イメージを立体化した彫刻も手掛け、高い評価を得る。
	こんごう 金剛 永謹	能楽師	金剛流二十六世宗家。「舞金剛」と呼ばれる伝統の舞の継承とともに、金剛能樂堂移転という大事業を成し遂げた。重要無形文化財保持者(各個認定)(人間国宝)としても、後進の育成にも力を注ぎ、能文化を未来へつないでいる。
	てらいけ 寺池 静人	陶芸家	浮き彫りにした草花の造形と釉滴彩という独自の技法により花びらや葉のみずみずしい輝きを表現した作品は、自然のさりげない美を、柔らかな生命感とともに器に宿し、高い評価を得ている。
	ふしき 伏木 亨	食品科学者	おいしさの解明を通じて、和食を学問領域に高めるとともに、「日本料理アカデミー」設立と和食のユネスコ無形文化遺産登録に尽力した。また、おいしさと健康を両立させる食の未来を目指す食育の活動も続けている。
功労賞	かねうじ 金氏 徹平	美術家	子ども時代の「創作の欲求」を原点とした、未だ知らないもの・認識できていないものへの探究心から、人、モノ、空間、言葉——あらゆる境界線を解き放ち“接続”する創造力は、彫刻、絵画や舞台芸術、インスタレーションなど分野の枠にとらわれない作品を繽々と生み出し続けている。
	かわしま 川嶋 渉	日本画家	身近な自然物が見せる一瞬の儂さ、美しさを捉えた表現が高く評価される。近年は、墨の粒子を“走らせる”ことによる新たな表現で、墨を顔料として捉え、膠の劣化による粒子の動きを美的要素に昇華する試みで、日本画に新たな展開を切り拓いている。
	かわむら 河村 大	能楽師大鼓方	石井流大鼓方、重要無形文化財保持者(総合認定)。気迫に満ちた大鼓の響きは舞台で確かな存在感を放ち、共演者から厚い信頼を寄せられている。能の未来へ責任を担おうとする覚悟を胸に、自身の芸を磨きなら次世代への継承にも務めている。
	しげまつ 重松 あゆみ	陶芸家	直接、粘土を触り、手で考えることで、かたちを探す。現代陶芸という用途のない彫刻的な造形を究め、「骨の耳」や「Jomon」シリーズにおいて唯一無二の造形を展開しながら自身の作風の変化とともに歩み続けている。
	しんない 新内 志賀	邦楽家	日本特有の語り芸の面白さが息づく江戸淨瑠璃・新内節の継承と発展の歩みを進めながら、小唄や三味線の技術を活かし、本名・重森三果名で映画や舞台、テレビ、現代アートなどとも協働を積極的に行い、「新内節」や邦楽の枠を超えて表現の幅を広げ続けている。
	ふくもと 福本 繁樹	染色家・美術家	オセアニア美術に衝撃を受け、染色・工芸論や、民族藝術学領域の研究・著作・教育活動に取り組むとともに、孔版を用いた蠟染めや、精細な「布象嵌」など、前例のない手法を開発している。
	まつした 松下 悅子	声楽家(ソプラノ)	ドイツからの帰国後、独創性・企画性の高いプログラム内容と伸びやかな歌唱力が高く評価され、数々の賞を受賞。近年は、日本の文学作品を歌詞にした声楽作品を歌うなど、新たな表現に挑戦する一方、声楽教育を「自分と対峙する学び」と捉え、大学での教鞭もとっている。
	もりみ 森見 登美彦	小説家	新刊『シャーロック・ホームズの凱旋』が高い評価を得るなど、京都を舞台に、詩的で独特的な語り口と、日常の中の幻想的な情景描写は、唯一無二の世界観を生み出し、多くの読者を魅了している。悩みながらも筆を止めず、これからも京都に新たな物語の景色をもたらしてくれる。
奨励賞	やまもと 山本 茜	截金ガラス作家	厚みのあるガラスの中に截金を立体的に表現した「截金ガラス」による源氏物語五十四帖を制作。令和元年には作品「一葉舟」が大英博物館に買い上げられるなど、国内外で高く評価されている。
	かつら 桂 二葉	落語家	京都でのラジオ番組では台本に縛られない軽快な掛け合いで京都の魅力を発信。女性初の快挙となったNHK新人落語大賞受賞後も、物怖じせず前進し続け、受け継いだ教えを大切にしながら、自らの感性で表現を育てている。
	せいけ 清家 一斗	殺陣師(東映剣会)	東映京都撮影所が育んできた華やかさの中に品格があり、人の情がにじむ動きで、時代劇の魅力を広く伝える。『侍タイムスリッパー』や『室町無頼』でも殺陣師として作品に貢献。時代劇、現代劇を問わず、映画やドラマ、舞台の数々の作品で活躍の場を広げ、注目されている。
	たけだ 武田 綾乃	小説家	宇治市を舞台に、学校生活や吹奏楽経験をもとに青春の輝きや葛藤を瑞々しく描いた『響け!ユーフォニアム』シリーズでは、宇治の風景が鮮明に描かれ、京都アニメーションによる映像化も相まって、実際に宇治を訪れるファンも多く、地元の活性化に貢献している。
	たむら 田村 圭吾	料理人	「京料理 萬重」の三代目として長年の顧客を大切にする姿勢を貫きながらも、現代人の味覚に合わせて洗練を重ねてきた。京料理の登録無形文化財への登録にも重要な役割を果たすとともに、文化庁の文化交流使としても海外での日本食の普及に尽力した。
	とうじんばら 唐仁原 希	画家	西洋のオールドマスターたちの絵画にも深い関心を抱いたことが原点となり、日本のアニメや漫画に登場するヒーローたちや各国の神話などをモチーフに物語性のある少年少女を描く。鑑賞者を絵画の世界へ引き込む独特の手法で注目されている。